

1. 高室の目 次世代ケアマネジメントへのヒント

[2022年 ケアマネジャーに求められる6つの支える力]

①本人（自分）らしさと自立（自律）を支える力

利用者を支えるとは「本人（自分）らしさ」を中心軸におくこと。「その人らしさ」は支援者側の一方的な決めつけです。「自立（ADL、IADL、心身機能改善）」だけでなく、「自律（CADL・意思決定・意思実現）」に着目することで認知症支援、中重度期～看取り期、ACP等のカンファレンスで利用者本位が實けます。

Key word : 自立支援、自律支援、CADL、意思決定・意思実現支援、ACP、認知症支援

※ CADL：文化的日常生活動作（高室成幸提唱）

②ICTをフル活用したチームケアを支える力

相談援助技術には利用者・家族の状況や意向を把握し、質の高いチームケアを実践できるケアマネジメント力が求められています。コロナ下で広がったオンライン会議などICT手法もフル活用して利用者・家族とケアチームのチームファシリテーターをめざしましょう。

Key word : チームケア、相談援助技術、ICT、オンライン、ファシリテーター



③家族介護者の人生（暮らし、仕事、就学）を支える力

介護期間の長期化、家族介護者の高齢化、介護離職や転職、若年者（ヤングケアラー）の学業断念など、家族介護の危機は深刻化し、破綻による悲しい事件（介護殺人、介護心中、遺体遺棄）も起こっています。同居・近距離・遠距離でかかわる家族介護者の人生を支えることがケアマネジメントに求められています。

Key word : 介護期間、老老介護、介護離職、ヤングケアラー、介護殺人



④緊急時（地震、台風、熱中症、感染症等）の利用者の生命を守る仕組みを支える力

地球環境の変化は気候変動に影響し、気温の上昇による熱中症やコロナウイルスなどの感染症も広がっています。数年おきの大地震は予断を許さない段階にきています。緊急時の利用者の命を守る仕組みをつくることが喫緊の課題となっています。

Key word : 気候変動、熱中症、感染症、コロナウイルス、地震、浸水



⑤社会参加と地域づくりを支える力

地域包括支援センターと連携し、コロナ下で広がった新しい社会参加の方法（オンライン）も活用して、住み慣れたなじみの地域での社会参加とともにSNSを含めた「新しいつながりと居場所づくり」を利用者（家族）支援に活かすことをめざしましょう。

Key word : 社会参加、オンライン、ICT、SNS、居場所



⑥持続可能な地域包括ケアシステムを支える力

急激に進む少子化と高齢人口の増加で地域包括ケアシステムの持続可能性が問われています。市町村と日常生活圏域ごとに地域課題と地域資源を整理・分析し、2045年までの高齢化率と要介護認定率、介護保険料などの推移をシミュレーションしましょう。

Key word : 持続可能性、地域課題、地域資源、高齢化率、要介護認定率

〔次世代ケアマネジメントを読み解く「6つのキーワード」〕

2025年に団塊世代が後期高齢者になり、少子高齢化と日本社会の長命化はますます進みます。そして、コロナウイルス感染拡大は日本の生活様式や社会的習慣、ケア実践に大きな変革を求めて

います。次世代のケアマネジメントを「6つのキーワード」からシミュレーションしてみましょう。



100歳長命への支援

日本高齢社会は医療の進歩と介護保険制度、介護予防意識と健康意識の向上により「人生100歳時代」が現実となってきました。一方、介護期間は長期化し、100歳を視野に置いたケア手法とケアマネジメント技術が求められています。2025年は団塊世代が後期高齢者となります。ケアマネジメントと地域包括ケアシステムは「100歳長命」を視野にした支援の仕組みを取り組みを本格化する時期にきています。

本人らしさ(CADL)の尊重

2025年からは後期高齢者の主流は団塊の世代です。クルマ、ファッション、趣味やライフスタイルにこだわりが強い「消費社会のけん引者」たちは自尊感情も強く、高い権利意識の人たちです。支援のポイントは当事者目線の「本人(自分)らしさ」(CADL:文化的日常生活行為)を軸におくこと。CADL(楽しみ、役割、生きがい、自己実現等)だけでなくADLやIADLのなかにあるCADL的要素も抽出することで本人への動機づけに活用できます。

多様なケアラーへの多様な支援

要介護高齢者や障害者の家族介護者(ケアラー)は高齢者、中高年だけでなく10代~20代(ヤングケアラー)も増加し、男性介護者は全体の4割になりました。これからケアラー支援は「ながら介護」(例:仕事、子育て、学び)への支援です。地域包括支援センターと連携し、新サービスの提案や開発、行政への上乗せ・横出しサービスの働きかけ、民間企業や学校関係者との情報交換と連携、地域ボランティアとの連携が求められています。

ケアマネジメントにおけるICT活用

ケアマネジメント業務の効率化と省力化、各種の面談や会議・研修、三密防止・感染予防、緊急時・災害時に使い勝手よく活用できると注目を集めるICT技術の数々。コロナウイルスの国内感染の広がりで必要性と可能性が広く認知されました。2035年以降の高齢者や家族はSNSとICTを日常的に使いこなせるレベルの人たちとなり、ケアマネジメントにおけるICT活用は飛躍的に進んでいくでしょう。

居住系ケアマネジメント

これからは高齢期の「住みかえ先」として社会的に認知された居住系施設へのケアマネジメント支援は喫緊の課題です。行政・地域包括支援センターと連携し、利用者本位の立場を第一に、外部サービスの選別・調整から生活支援サービスの効果的活用と提案、日中の生活支援と夜間の見守り、家族や地域社会との交流・参加などをコーディネートする居住系施設におけるケアマネジメントの確立が求められています。

多死社会支援～看取り&ACP支援～

高度経済成長期に人口が1.8倍に膨れ上がった日本は2025年から約30年間、「多死社会」となります。自分の死(人生の終焉)・家族の死を、「どこで、いつまで、どのように」迎えるか。看取りケアやACPは本人支援の最終段階です。医療・介護チームと家族・友人たちがどのように有機的にかかわり、「本人が望む死」を支援できるか。エンドオブライフ・ケアマネジメントがキーワードとなります。

2. 介護保険制度

〔保険給付の種類〕

介護保険の保険給付には、①介護給付（要介護者に対する法定給付）②予防給付（要支援者に対する法定給付）③市町村特別給付（市町村が条例

で個別に定める給付）の3種類があります（法第18条）。

法定給付に関する指定監督は次のとおりです。

●法定給付と指定監督者

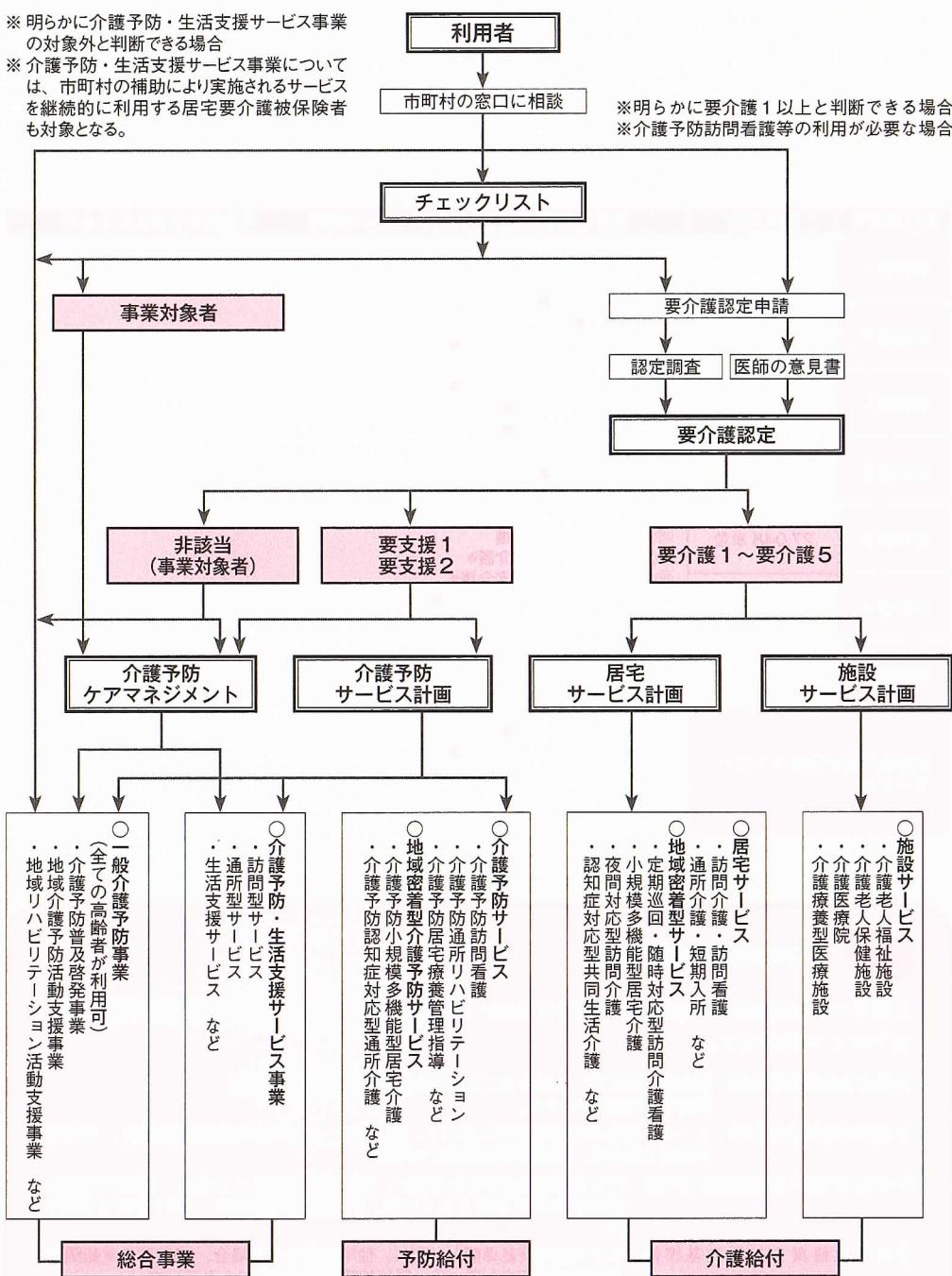
	都道府県知事が指定監督を行うサービス	市町村長が指定監督を行うサービス
介護給付を行うサービス	<ul style="list-style-type: none">◎居宅サービス<ul style="list-style-type: none">[訪問サービス] ◎訪問介護 ◎訪問入浴介護 ◎訪問看護 ◎訪問リハビリテーション ◎居宅療養管理指導[通所サービス] ◎通所介護 ◎通所リハビリテーション[短期入所サービス] ◎短期入所生活介護 ◎短期入所療養介護○福祉用具貸与○特定施設入居者生活介護 ○特定福祉用具販売○施設サービス<ul style="list-style-type: none">◎介護老人福祉施設 ◎介護老人保健施設 ◎介護医療院 ◎介護療養型医療施設	<ul style="list-style-type: none">◎地域密着型サービス<ul style="list-style-type: none">○定期巡回・随時対応型訪問介護看護 ○夜間対応型訪問介護 ○地域密着型通所介護 ○認知症対応型通所介護 ○小規模多機能型居宅介護 ○認知症対応型共同生活介護 ○地域密着型特定施設入居者生活介護 ○地域密着型介護老人福祉施設 ○入所者生活介護 ○複合型サービス (看護小規模多機能型居宅介護)○居宅介護支援
予防給付を行うサービス	<ul style="list-style-type: none">◎介護予防サービス<ul style="list-style-type: none">[訪問サービス] ◎介護予防訪問入浴介護 ◎介護予防訪問看護 ◎介護予防訪問 リハビリテーション ◎介護予防居宅療養 管理指導[通所サービス] ◎介護予防通所 リハビリテーション[短期入所サービス] ◎介護予防短期入所生活介護 ◎介護予防短期入所療養介護○介護予防特定施設入居者生活介護 ○特定介護予防福祉用具販売	<ul style="list-style-type: none">◎地域密着型介護予防サービス<ul style="list-style-type: none">○介護予防認知症対応型通所介護 ○介護予防小規模多機能型居宅介護 ○介護予防認知症対応型共同生活介護○介護予防支援

介護サービスの利用の手続き

※明らかに介護予防・生活支援サービス事業の対象外と判断できる場合

※介護予防・生活支援サービス事業については、市町村の補助により実施されるサービスを継続的に利用する居宅要介護被保険者も対象となる。

※明らかに要介護1以上と判断できる場合
※介護予防訪問看護等の利用が必要な場合



出典：厚生労働省資料

[この手帳の使い方]

「ケアマネジャー手帳 2022」は、日々の実務に役立つ工夫を様々に盛り込んだ手帳です。別冊の便利帳には、サービスの単価表や関連する制度等、

充実した内容を収載。また、便利帳は取り外せるので、用途に合わせて自由にカスタマイズできます。

I. スケジュール管理

2022 JANUARY

月 MONDAY 火 TUESDAY 水 WEDNESDAY 木 THURSDAY 金 FRIDAY 土 SATURDAY 日 SUNDAY

27 28 29 30 31 1 2

3 4 5 6 7 8 9

10 週末 11 12

17 支給 18 19

31 1 2

TO DOリストも充実

仕事とプライベートを「一元管理」。時間管理がしやすいバーチカルタイプ

使いやすいシンプルなデザインで月間スケジュールを管理

自由に書き込めるスペース

II. 研修管理シート

2016年から法定研修が大きく見直されました。このシートを活用して自分の研修受講予定をぱっちり管理!

研修管理シート:専門研修

実務研修における必要な資格・認定

小課支援用の表の書き込み

研修管理シート:実務研修

研修管理シート:実務研修

